

【感想】私は京土会若手研修助成基金による援助を頂き、2018年8月30日から9月7日までの間、インドネシアのブンクルにてKiDSの活動を行いました。

インドネシアは日本と同じく地震や津波が頻繁に発生する国です。先日もスラウェシ島のパルにて津波により多くの犠牲者が出ました。災害において事前の防災知識の有無によって生死が分かれることは私達も痛感しているところだと思います。この活動では主に地元の小学校を回り防災教育を行うことで、子供たちを通じてコミュニティ全体の防災意識を高め日本とインドネシアの災害に関する情報格差をなくすことを目的としています。

本年度は全部で8校回りました。ドラえものの劇を通して地震が起こる仕組みや地震発生時どのような行動をとるべきなのかを分かりやすく伝える努力をしました。小学校によっては避難訓練を実施しているところもあり、私が想像していたよりも意識が高く子供たちも真剣に聞いてくれていたように思います。また最後に伝言ゲーム形式で防災カルタをすることで、楽しみながら全員が災害に対する知識が身につくよう工夫しました。最終日には在インドネシア日本大使館に表敬訪問し防災に関する意見交換させていただきました。

ブンクルは海辺の町であり海岸で遊んでいる人をよく見かけました。だからこそ津波の被害を少なくするために防災知識を広めることが重要であると改めて感じました。また、私は防災系の研究室に所属しているため日本とインドネシアの災害対策の違いについても興味がありました。両国ではそもそもインフラ設備の整備具合に差があるため日本でのやり方がそのままインドネシアで通じるわけではなく、地域に合ったやり方を見つけていくことも大事であると知ることができました。私は初めて海外で活動しましたが、多くの方の手助けのおかげで貴重な体験ができました。ご支援いただきありがとうございました。